

地球惑星システム学科について

理学部
地球環境進化化学講座 沖村 雄二
地球惑星物質循環学講座 本多 了二

理学部地球学科が地球惑星システム学科に改組され（官報八七八号）、地球環境進化化学、地球造構学、地球惑星物質学、地球惑星物質循環学および地球惑星内部物理学（次年度発足予定）の講座構成（入学定員三八名）による、地球惑星科学の総合化を目指した研究・教育の第一歩が力強く踏み出されている。

近年、環境庁は、先進世界各国の動向をふまえて、「地球化時代の環境ビジョン」（昭和六三年）をまとめて、大気・水・地・生物圏を互いに関連づけて一つの系として把握する視点の重要性を指摘し、測地審議会は地球環境システムを説明するために、「地球科学の推進について」（平成元年）と題して内閣総理大臣・文部大臣に建議を行った。さらに平成二年には日本学術会議が「地球圏—生物圏国際共同研究計画」の実施を政府に勧告した。こうした地球環境問題に関わる基礎科学としての地球科学の進展の重要性とともに、近年地球科学は地球惑星で起こっているあらゆる地質学的・地球物理学的・地球化学的現象を、相互に絡み合った一つのシステムとしてとらえうる学問的状况へと進んできた。地球学科では、このような学問的状况を先取りした研究・教育を行おうとする努力を数年来たゆまなく

地球惑星システム学科

